

TOURISM EXPO JAPAN

見たことないものを見にいこう

GO

9.25^{THU}-28^{SUN}

Aichi Sky Expo
(愛知県国際展示場)

旅は
“知”の再発見



ツーリズム EXPO ジャパン 2025 愛知・中部北陸

<https://t-expo.jp>



愛知・中部北陸から世界に旅の魅力を発信

高橋広行実行委員長(日本旅行業協会会長)に聞く

世界最大級の総合観光イベントとして確固たる存在感を示してきた「ツーリズムEXPOジャパン」。2025年は初めて愛知県で開催され、「愛知・中部北陸」という広域エリアを舞台に、さまざまな角度から旅の魅力を国内外へ発信する。2023年以來の地方都市での開催となる中、今回のイベントをどのような場として位置づけていくのか。ツーリズムEXPOジャパン2025実行委員長を務める高橋広行・日本旅行業協会(JATA)会長に、業界の最新動向とともに今開催のポイントを聞いた。

「好調・堅調・低調」、三極化する日本のツーリズム市場 海外旅行復活、業界喫緊の課題

一足元のツーリズム業界の現状についてどのように見ているのか

「直近の状況を一言で表現するとすれば『好調・堅調・低調』のまだら模様ということになるのではないかな。訪日インバウンドについては昨年過去最高の3687万人となった。消費額についても8兆円を突破した。今年に入っても昨年を上回っており『好調』に推移している。この傾向は当面続くものと考えている。国内旅行については消費額が過去最高となる25兆円となった。需要の分散化などの課題はあるものの、国内旅行については『堅調』に推移しているものと考えている」

「『低調』となっているのが海外旅行だ。2019年に2000万人を突破したが、昨年は約1300万人で19年の65%の回復率にとどまっている。今年に入ってじわりじわりと回復してはいるものの未だ70%水準。われわれ業界としてはいかにして海外旅行を復活させるのかが最大の課題であると考えている」

一海外旅行の需要喚起は官民一体となって取り組んでいるところだ

「JATAにおいては、今年3月に観光庁、外務省とともに『もっと！海外へ』宣言を発出し需要喚起に取り組んでいる。そのなかで新パスポートの導入にあわせて、大規模な『新パスポート取得サポートキャンペーン』を展開している。また、2026年度からスタートする政府の新たな観光立国推進基本計画の策定に向けた検討が進められる中で、アウトバウンドを回復させて均衡のとれた双方向交流を実現する必要性を強く求めている。特にパスポートの保有率が17%と低下している中で、若者の海外渡航を促すことを目的にパスポート取得への支援を行うこと。そして全ての児童・生徒が国内外において国際交流を体験してもらえるように教育機関における国際交流の必修化を提言している」

「海外旅行需要喚起という視点では、JATAとして初の試みとして俳優・アーティストとして活躍する岩田剛典さんをJATA海外旅行アンバサダーとして起用した。岩田さんにはツーリズムEXPOジャパン2025の会場でトークイベントを行ってもらうことになっているので、楽しみにしていた



だきたい。また、展示会場では世界約80カ国が参加し最新情報を提供する。ツーリズムEXPOジャパンを通じて、改めて海外旅行の良さを再認識してもらえるような流れを作っていきたい」

中部エリア観光の潜在性を引き出す 北陸の復興を観光の力で後押し

一今年のツーリズムEXPOジャパンは地方での開催。初めて愛知県で行われることとなる。

「現在のツーリズムEXPOジャパンは東京をベースに地方との交互で開催する形となっている。これまで大阪と沖縄で開催してきたが、今回は初めて愛知県で実施する。ツーリズムEXPOジャパンの開催が地域にどのような効果をもたらすのかといった視点からも今回は大きな試金石になると考えている」

「今年のツーリズムEXPOジャパンは『愛知・中部北陸』として中部・北陸9県の広域開催とした。中部・北陸にはまだまだ表に出し切れていないような魅力があると思っている。これを国内外に向けてアピールしていく。訪日インバウンドの視点で見るとゴールデンルートの線上にあるものの、通過していく流れとなっているのが現状だ。そうした中で中部エリアの魅力をアピールして立ち寄ってもらう流れを作っていく。さらに、北陸新幹線が敦賀まで延伸したことで、北陸を経由した新たなルートが構築された。オーバーツーリズムを回避するという観点からもツーリズムEXPOジャパンを通じて北陸ルートをもっと訴求していきたい」

「国内旅行活性化からの観点でも、中部エリアの観光素材はまだまだ伝えきれていない部分もあるので、ツーリズムEXPOジャパンを通じて中部・北陸エリア観光を盛り上げていきたい。中部・北陸9県は今回共同ブースを出展することになっているが、ツーリズムEXPOジャパンの開催に大きな期待を寄せていただくとともに、イベントを盛り上げようと非常に協力していただいております。大変ありがたく思っている。また、地元愛知県ご出身の俳優、瀬戸朝香さ

んにスペシャルサポーターに就任いただいたので、トークショーなどを通じて地域の魅力を大いに発信していただきたい」

「北陸は昨年地震や大雨災害に見舞われた。ここからの復興についてもツーリズムEXPOジャパンを通じて後押ししていきたい。北陸の復興支援は息の長いものにしていきたいと考えており、物産展の開催などを通じて世の中の人たちに北陸の良さを知ってもらい、復興の流れにつなげていきたい」

セントレアの活性化、地域とともに考える 観光に変革をもたらす休み方改革も議論

一開港20周年を迎えた中部国際空港(セントレア)の活性化も大きな目的の1つとなっている

「セントレアの国際線はコロナ禍前の便数には戻っておらず、他の主要空港と比較しても低い回復率にとどまっているのが実情だ。中部圏は首都圏、関西圏に次ぐ大きなマーケットであり、アウトバウンドに対するポテンシャルも大きい。また、先ほども申し上げたように訪日インバウンドにとっても、豊富な観光資源があり、セントレアを起点とした観光ルートを構築することも可能だ。そうした双方観光において大きな潜在性があるという点を世界に訴えていきたい。」

加えて、愛知県を始めとした中部地区には世界的企業も数多く存在するほか、陶磁器を始めとした日本独自の伝統産業、また、発酵食品に代表される豊かな食文化もあるので、レジャー需要だけでなく、ビジネス需要のさらなる喚起に向けても活性化の余地があると考えている」

「ツーリズムEXPOジャパンではセントレアからいかに海外旅行を増やしていくのかというテーマでシンポジウムを行う予定だ。ここでの議論なども踏まえて、地域の関係者とともにセントレアの活性化について考えていきたいと思っている」

一「休み方改革」に関連した企画も今回のツーリズムEXPOジャパンの目玉の1つとなっている

「休み方改革というのは、観光のあり方そのものを変えると考えている。全国知事会の『休み方改革プロジェクトチーム』のリーダーを愛知県の大村秀章知事が務めていらっしゃるので、今回のツーリズムEXPOジャパンでは最適の企画ではないかと考えている。休み方改革の取り組みとしては、愛知県が先行して取り組んでいる子どもの学びと休暇を組み合わせた『ラーケーション』が注目されており、導入する自治体も徐々に増えてきている状況だ」

「ただ、ラーケーションをさらに普及させるためには、親世代の働き方改革もセットにして考えていかなければならない。愛知県の場合は子どもが保護者や家庭と校外学習を行う際、学校を欠席扱いとしない制度とともに、『あいちウィーク』といった県民の休み方改革への取り組みを一緒に導入されたことで大きな効果が出ている。今後は休み方と働き方の改革を連動して行えるように国や経済団体などにも働きかけを始めているが、その動きを加速していく必要があると考えている」

「観光業界にとっても休み方改革は、旅行回数や宿泊日数の増加に加え、旅行需要の平準化やオーバーツーリズムの

緩和、さらには雇用の拡大と安定化にもつながる重要な取り組みであると思っている。ツーリズムEXPOジャパンで行われるシンポジウムを通じて、休み方改革が日本の観光の流れを変えることができるという部分をアピールしていきたい」

BtoB商談会、MICE・教育旅行に力点 観光大臣会合、地域連携戦略テーマに

一ツーリズムEXPOジャパンはBtoB商談の場としての意味合いも大きい

「ツーリズムEXPOジャパンは日本から観光の魅力を世界に発信していくという役割とあわせて、BtoBのコミュニケーションの場をいかに提供できるかという点で存在意義を示していくことが重要であると考えている。今年のツーリズムEXPOジャパンでは、業界関係者の要望が強いMICEと教育旅行をテーマに盛り上げていきたい。今回はMICE、教育旅行に関するバイヤーの参加に注力しているほか、特別セミナーなども開催し、ビジネスチャンスを提供していきたい」

一今年もツーリズムEXPOジャパンで観光大臣会合が行われる。会合を通じて世界に発信していきたいポイントとは

「今年の観光大臣会合は『激変する地域観光～地域連携戦略と人材育成』をテーマに議論を行うこととしている。地域観光という視点において世界の観光情勢を見ると、やはりオーバーツーリズムが共通の課題となっている。特定のエリアに観光客が集中してしまうことで、なかなか地域の津々浦々まで観光の効果をもたらす切れていないという課題がある」

「そこで、今回の観光大臣会合では、観光を通じてどのように地域活性化を図っていき、オーバーツーリズム問題の解決につなげていくのかという観点で議論を深め、それぞれの国で行っている取り組みを共有し、学びにつなげていきたいという思いがある」

ツーリズムEXPOジャパンで業界関係者が結束

一最後に、旅行・観光産業のさらなる発展へツーリズムEXPOジャパンが果たす役割について改めて伺いたい

「ツーリズムEXPOジャパンは世界に日本の魅力を発信していく絶好の場である。それと同時に旅行会社、宿泊事業者、観光施設など観光に携わるすべての事業者が結束するという意味合いでも非常に大きな存在である。また、併催されるインバウンド商談会のVISIT JAPANトラベル&MICEマート2025（主催:JNTO）においては約330社・団体のセラーと約280社のバイヤーが集結する予定だ。国内旅行、海外旅行、訪日インバウンドが一体となって日本の観光マーケットが成長している姿を示す場であり続けることが重要であると考えている。そのためには、時代にあわせてイベント全体を進化させ、変化を先取りしていく必要がある」

「今後も、日本のツーリズムは常に進化しているという姿を示すとともに、来場すれば、ツーリズムに関する多様な情報やコンテンツに触れられる学びの場であることを意識しながら運営を続けていきたい」

ツーリズムEXPOジャパンが愛知に初上陸

テーマは「旅は“知”の再発見」世界に観光の魅力発信



世界各国・地域と日本全国の観光地が一堂に会し、旅の魅力を創造する世界最大級の旅の総合イベントとして毎年開催されている「ツーリズムEXPOジャパン」。11回目を迎える2025年の舞台は初めての開催となる愛知県。中部国際空港に隣接する「Aichi Sky Expo（愛知県国際展示場）」で9月25日～28日の4日間にわたって実施する。

国内47都道府県、世界から約80の国・地域が参加 4日間の会期で10万人の来場見込む

今年のツーリズムEXPOジャパンは「旅は“知”の再発見」をテーマとした。全国47都道府県からのブース出展に加え、今年は世界から約80の国・地域が参加。インバウンド・アウトバウンド需要の拡大や観光による地域活性化。そして中部・北陸の魅力を世界に向けて発信する。あわせて、今年開港20周年を迎えた中部国際空港の活性化や北陸の復興支援発信の拠点として位置付ける。

主催者である日本観光振興協会（日観振）、日本旅行業協会（JATA）、日本政府観光局（JNTO）も今年のツーリズムEXPOジャパンにさまざまな想いを抱いて臨む。

日観振の最明仁理事長は国内外からさまざまな関係者が参加することについて「ツーリズムEXPOジャパンを切り口に、国内外の旅行者に日本の津々浦々を訪れたもらいたいという強い想いが表れているのではないかと指摘した。

JATAの高橋広行会長は「中部圏は首都圏、関西圏に次ぐ大きな海外旅行マーケットであり、世界から見ても魅力的な市場だ。ツーリズムEXPOを通じて中部国際空港のさらなる国際化につなげていきたい」と意気込みを示した。

JNTOの蒲生篤実理事長は「訪日外国人旅行者の数は堅調に推移しているが、中部・北陸地方を始めとして地方誘客はわれわれに課せられたミッションだ。今回を1つのタイミングであると捉え、しっかりと取り組んでいく」と強調した。



中部・北陸9県が初めての共同出展 「感動旅」を切り口に地域の魅力訴求、北陸復興支援も発信

ツーリズムEXPOジャパン2025のホスト役となる愛知中部・北陸エリアの関係者も今回のイベントを大きな期待感を持って迎えようとしている。

中部・北陸9県（富山・石川・福井・長野・岐阜・静岡・愛知・三重・滋賀）は今回初めてとなる共同ブースを出展する。「GO CENTRAL JAPAN～9県の感動旅を～」をテーマに地域が誇る食や自然、歴史、ものづくりの魅力を来場者に存分に楽しんでもらう内容で国内外に多彩な観光素材や魅力をアピールしていく。

中部経済連合会の勝野哲会長は「愛知・中部・北陸の魅



力やポテンシャルを広く発信する絶好の機会。中部圏にある魅力ある観光地を点と面で捉え、広域的なプロモーションを行っていききたい」と話す。

北陸経済連合会の東田隆一専務理事は「昨年の北陸新幹線敦賀延伸で旅客数が増加した。ここで改めて北陸の豊かな観光素材を紹介していき、誘客効果をさらに拡大していくチャンスととらえている」と意気込みを示した。加えて地震や豪雨災害からの復興に向けて「引き続き能登に対する想いや支援を共有していきたい」と述べ、復興支援の発信点としても位置付けていきたい考えだ。

愛知県観光協会の安藤隆司会長は「地域一丸となって愛知が誇る観光の魅力を国内の来場者に広く伝え。誘客促進と県内周遊の活性化につなげたい」と意欲を見せた。

「コンテンツツーリズムエリア」を新設 BtoB商談会は教育旅行・MICE関連を強化

展示会場では初の愛知県開催ならではの特色ある展示を数多く用意。北陸の物産展なども実施する。このほか、特集エリアには新たに「コンテンツツーリズム」のコーナーを用意。アニメやドラマの「聖地巡礼」を地域活性化や地方創生への課題解決につなげる取り組みを行う出展者を集め、次世代型の旅を提案する。

25日、26日の業界日には、国内・訪日・海外旅行商品造成・企画責任者や営業担当者と出展者が、事前マッチングによるアポイント制の商談を実施。会期中には5500セッション以上のビジネスミーティングが行われる。さらに今年はMICEと教育旅行に注力。MICE関連では日本コンベンション協会や名古屋商工会議所がパイヤーとして初参加する。また、MICE・教育旅行パイヤー向けの特別セミナーも実施される。このほか、観光産業関係者の業務に役立つ「ツーリズム・プロフェッショナル・セミナー」も多彩なテーマを用意している。

TEJ観光大臣会合「激変する地域観光」テーマに議論 中部からの海外旅行活性化や休み方改革などのシンポジウムも

商談会やセミナーなどとあわせて行われる「TEJカンファレンス」もさまざまなテーマをもとに講演やシンポジウムが行われる。

基調講演ではジブリパークのおひざ元である愛知県ならではの企画として、スタジオジブリの中島清文代表取締役副社長が登壇し「迷子になろうよ、いっしょに。」をテーマに実施される。

今年が第8回目となる「TEJ観光大臣会合」には世界各地の観光大臣や観光国際団体の代表が一堂に会する。今年は「激変する地域観光～地域連携戦略と人材育成」をテーマとしてディスカッションが行われることになっている。

テーマ別シンポジウムでは地元愛知県の大村秀章知事が座長を務める全国知事会の「休み方改革プロジェクトチー



ム」と愛知県が主催し「休み方改革シンポジウム」を開催する。今回は『『休み方改革』で日本の観光を変える！』をテーマに休み方改革の目的や効果を共有し、一層の機運醸成を図る。

海外旅行シンポジウムでは「セントレアからいかにして日本人海外渡航者を増やしていくのか」をテーマに、空港、航空会社、旅行会社それぞれの立場から現状・課題・今後の展望を語ってもらい、今後の共通テーマとして考えてもらう場とする。

このほか、国内旅行シンポジウムは、身の回りにあるモノやサービスを日常時はもちろん、非常時にも役立つようにデザインしようという「フェーズフリー」に注目した議論を行う。

インバウンドシンポジウムは「地域の多様な食の力を活用したガストロノミーツーリズム」をテーマに多様な食のニーズに対応する取り組みや海外の事例紹介を通じて、日本におけるガストロノミーツーリズムの可能性について考える。

インバウンド商談会「VJTM」を中部圏で初開催 トラベルソリューション展も併催

同時開催イベントとしてはJNTOが主催する国内最大級のインバウンド専門商談会「VISIT JAPAN トラベル&MICEマート」が中部圏で初めて行われる。今回は全世界からパイヤー約280社が愛知に集う。そして、日本全国のセラー約330社・団体と6000件以上の商談を実施する。また、商談会参加後約240人の海外パイヤーは中部・北陸エリアを中心とする12コースのファムトリップに参加する。あわせて中部空港の利用促進を狙い、空港周辺の観光資源を視察・体験する企画も行われる。

このほか9月25、26日には会場内に特設エリアを設け、デジタル技術やサービスなどで観光産業を支援する事業者向けの展示企画「トラベルソリューション展 2025」を開催。ツーリズムEXPOジャパンと同時に開催することで、新たなビジネス創出の機会を提供する。



旅が持つチカラや故郷愛知県の魅力とは



スペシャル・サポーターの 瀬戸朝香さんに聞く

愛知県で初めて開催されるツーリズムEXPOジャパン2025。その「スペシャル・サポーター」に、地元愛知県出身の俳優・瀬戸朝香さんが就任しました。今回、瀬戸さんが抱く「旅」への想い、そして来場者にぜひ知ってほしい地元・愛知の魅力などについて話を聞いてみました。

サポーター就任「とてもワクワク」 自然に触れる旅で心がリラックス

ーツーリズムEXPOジャパン2025のスペシャル・サポーターに就任することになりました

世界最大の旅のイベントである、ツーリズムEXPOジャパンが私の故郷・愛知県で開催されるということで、とてもワクワクしています。私自身旅が大好きなので、このイベントに携わることができて大変光栄です。

ー瀬戸さんは、年間でどのくらい旅行されているのでしょうか

私は海外・国内を問わず、年間でおよそ10回は旅に出ています。遠方だけでなく近場の旅も好きで、先日は静岡に住む友人に弾丸で会いに行ったり、江ノ島の砂浜で花火を見たりしました。大切な人との時間や心を動かされる感動があると、また次の旅に出たくなります。

ーいままでの旅で印象に残っている場所や経験などについて聞かせてください

これまでさまざまな旅をしてきましたが、やはり自然が豊かな場所が好きです。山や海といった壮大な自然に触れると心からリラックスできますし、子どもたちも思い切り遊べるところに魅力を感じます。

また、今年のはかつて出演した香港映画のロケ地・ランタオ島の大澳（タイオウ）を訪れることができました。当時宿泊していたホテルではベッドの配置が変わっていたことにすぐ気付くなど、24年前の記憶が一瞬で蘇りました。さらに、撮影の合間に一緒に写真を撮った方と再会したのですが、当時の写真を大切に持ち続けていてくださり、思わず涙がこぼれました。香港での旅は、人生には色々なことがあるけれど、これからも自分のペースで自分らしく歩んでいきたいと強く感じさせてくれる体験でした。

旅先の出会いが人生を豊かにする

子息が英国留学中、海外生活が育む力を実感

ー「旅」、「旅行」と聞いて思い浮かべることは何でしょうか

端的に言えば、「リフレッシュ」と「新たな発見や出会い」が旅の魅力です。旅は私にとって大切なリフレッシュの時間であり、今年の夏は子どもたちと沖縄の久米島・石垣島を訪れ、海遊びや現地の友人との交流を通じて心から癒されました。沖縄にはほぼ毎年のように足を運びますが、島の人々やおいしい島料理、星空や海などの壮大な自然に触れるたび、新たな発見や出会いがあると感じています。

ー今年のツーリズムEXPOジャパンのテーマは「旅は“知”の再発見」。瀬戸さんが「再発見したいモノ・コト」があれば教えてください

自分の住まいを離れて旅に出ると、必ず何かしらの発見があります。それが近場であっても、何気なく出かけたものであっても、新しい発見をした喜びを味わえるのが旅の魅力だと思います。

旅は「良い」という一言では言い尽くせない素晴らしさがあります。その土地ならではの発見に加えて、旅先での人との出会いも大きな価値だと感じます。たとえば、最近訪れた久米島でも現地で知り合いができ、温かく迎えていただいたことで「また行きたい」と心から思いました。そうした経験こそが旅の良さであり、大切にしていきたいことだと考えています。

ー瀬戸さんのお子さまは英国に留学中と伺っています。海外留学に込めた想いと、国際経験を通じて得てほしいことについて教えてください

息子は留学してから3年が経ち、親元を離れて生活を始めてからは大きく自立したと感じています。住み慣れた日本を離れて海外で学ぶ経験は非常に大きなもので、その学びが今後さまざまな場面でつながっていくのではないかとこの予感があります。実際に帰国した子どもたちと過ごしていると、その成長を強く実感しています。

愛知ならではのグルメと観光体験楽しんで ツーリズムEXPO会場で人生を彩る旅探しを

ー今年のツーリズムEXPOジャパンは愛知県で初めて開催されます。全国から愛知県を訪問する人々におすすめしたい物などがあれば教えてください

まず、私の地元である愛知県で開催されると聞いて、とても嬉しく思いました。愛知県はグルメもおいしいし、景色もきれいで、街の中にも自然があるなど魅力にあふれています。

私は瀬戸市の出身なのですが、瀬戸市は「瀬戸物」で知られる陶器の街です。ろくろ体験や絵付け体験もできるので、ぜひ遊びに来ていただき、現地でしかできない体験を楽しんでもらいたいです。

グルメについては、私の感覚では味付けが濃い方だと思いますが、愛知ならではのおいしい食べ物がたくさんあります。国内の方はもちろん、海外から訪れる方にも愛知のグルメを存分に楽しんでもらえたらうれしいです。

ーツーリズムEXPOジャパンの会場を訪れて体験してみたいことはありますか

まだ訪れたことのない国や場所には強い関心があります。会場では未体験のグルメを味わったり、伝統工芸にふれてみたいと思っています。そして、人生を彩ってくれる「次の旅」のきっかけを見つけたいですね。

ー最後にツーリズムEXPOジャパンを訪れる人にメッセージを

旅好きの方はもちろん、これまで旅に出る機会がなかった方にも、このイベントでさまざまな体験を通して旅の良さを知っていただきたいです。

世界180カ国以上に約10,250拠点を展開するエイビス・バジェットレンタカー 新プランやキャンペーンが続々と登場

「エイビス」と「バジェット」の各レンタカー商品に、新料金プランが加わり、利用者から好評を得ている。従来の車両保険のみを含むベーシックプランに加え、対人・対物保険も含まれる包括プランやガソリン代込みのプランが登場。さらに事前払いと現地払いの選択も可能となり、利用者のニーズに応じた商品を選べるようになった。なかでも現地払いのみだったオーストラリア、ニュージーランドでも事前払いに対応、より使いやすくなっている。

さらにエイビスレンタカーではヨーロッパを中心に33カ国とオーストラリアとニュージーランドで、バジェットレンタカーではオーストラリアとニュージーランド向けに免責ゼロ保険込みのパッケージを販売している。

ニュージーランド、南北を一度に予約 「マルチアイランド」プランが好評

エイビスとバジェットの両ブランドで、ニュージーランドの北島・南島を通して予約できる「マルチアイランド」プランが人気だ。北島と南島を行き来する際に、レンタカーをそのままフェリーに乗せて移動できる仕組みで、一度の予約でスムーズに利用でき、1契約でまとめて利用できるため、コスト面でも割安になる。



両ブランドの旅行会社用ウェブサイトのURLは以下の通り。

エイビスレンタカー

旅行会社用ウェブページ

<https://www.avis-japan.com/registagent>

メールアドレス

avis-car@jeiba.co.jp

(エージェンツ登録は上記ウェブサイトからお申込みください)

165カ国に約5,500の営業所を展開。レンタカー業界のファーストブランドの1つとしてハイスタンダードなサービスと豊富な車種を提供。また、信頼性と顧客満足度を重視し、快適なドライブ体験を提供します。

www.avis-japan.com



日本市場向けウェブサイトで 24時間予約可能

日本市場向けウェブ予約システムにはダイナミックプライシング機能を搭載。オンライン上で予約管理が可能となり、旅行代理店はこのウェブサイトを通じて、料金照会や記録確認、予約をいつでも行える。



旅行会社対象

システム登録でクオカードプレゼント



現在エイビス・バジェットレンタカーでは、旅行会社を対象としたプレゼントキャンペーンを実施中。2025年末までにエージェンツ登録を行った旅行会社の予約担当者、先着100名にクオカード500円分を進呈している。

バジェットレンタカー

旅行会社用ウェブページ

<https://www.budgetjapan.jp/loginagent>

メールアドレス

support@budgetjapan.jp

(エージェンツ登録は上記メールからご連絡ください)

120カ国で約3,500の営業所を展開し、リーズナブルな価格設定でレジャーをメインとしたお客様から多くの支持を得ております。また、アメリカ合衆国においては、約1,600の拠点を通じて、最大規模のトラックレンタル業務も運営しています。

www.budgetjapan.jp



基幹産業に相応しい労働環境の実現を目指して

サービス連合櫻田あすか会長×週刊ウイングトラベル嶺井政敏編集長対談

旅行業や宿泊業で働く仲間が集うサービス・ツーリズム産業労働組合連合会（サービス連合）は、わが国の基幹産業に相応しい労働条件を向上させるためにさまざまな活動に取り組んでいます。今回は櫻田あすか会長にサービス連合が現在取り組んでいる活動やこの産業で働く魅力などについて伺いました。



誰もが働きたい、働き続けたいと思える産業の実現へ

一开始に、サービス連合の概要について教えてください。

（櫻田） 私たちは旅行業や宿泊業、フォワーダーなど、サービス・ツーリズム産業の労働組合が加盟する産業別労働組合です。2001年に結成し、今年で25年を迎えました。現在は約200組合・4万人の組合員が加盟しています。

この25年間ではサービス・ツーリズム産業で働く人の労働環境の改善に力を入れてきました。特にコロナ禍で大きな打撃を受けた時は、産業の維持と組合員の生活を守るという部分で懸命に取り組んできました。

これとあわせて社会政策に関連した取り組みにも力を入れています。中でも男女平等参画社会の実現に向けた活動には力を入れているところです。



サービス・ツーリズム産業労働組合連合会
櫻田あすか会長

旅は知見を広げ、心に潤いを与えるもの 若者交流促進へ海外旅行に行きやすい環境整備を

ーツーリズムEXPOジャパンは世界有数の総合観光イベントです。旅行・観光業に携わる立場から、旅にはどのような魅力があると思いますか

（櫻田） 旅の魅力はたくさんあるのですが、旅をすることで私たちは知見を広げることができますし、その場でしか経験できないことが多くあります。日常生活を離れて旅に出ることで心に潤いを与えてくれるのも、大きなポイントなのではないでしょうか。人類は移動することで繁栄してき

たという歴史もあり、旅は人間から切り離せないものではないかと思っています。

ーサービス連合ではさまざまな政策提言を行っている中で、若者の海外旅行離れに課題感を持っているとのことですが

（櫻田） これから日本が観光先進国となるためには、訪日外国人旅行者を増やしていくだけでなく、日本人の旅行機会を増やすことも重要です。特に海外旅行については、わが国の国際競争力を高めるためにも不可欠であると考えています。観光庁の調査によると、海外旅行を経験した人の9割は、また海外を訪問したいという調査結果が出ています。海外旅行未経験者は円安などさまざまな理由で躊躇しているのが実情です。そこで、若者が海外旅行に行きやすいように国が背中を押すべきなのではないでしょうか。

例えば未成年のパスポートについては写真のみを更新することで10年パスポートの切替を可能としたり、未成年時の5年パスポートの更新については無償とするなど、パスポートを取得しやすい施策があれば推進につながるのではないのでしょうか。先日、岩屋毅外務大臣を表敬訪問する機



岩屋毅外務大臣のもとを訪れ、若者のパスポート取得支援策の必要性を訴えた

会があり、この考えを伝えてきたところで、必要性については理解してもらえたのではないかと考えています。

適正な価格転嫁の実現で産業間格差の是正をサービス・ツーリズム産業で働く魅力をアピール

―観光産業で働く人の労働条件向上に積極的に取り組まれています。現状ではどのような課題感を持っていますか

(櫻田) 私たちの産業を持続的な産業にしていくためには、誰もが働きたい、働き続けたいと思える魅力的な産業にしていくことが重要です。そして賃金と物価の好循環を踏まえ、労務費を含めた適正な価格転嫁を実行することで、他の産業との産業間格差是正につながります。このような考えのもと、今年の春季生活闘争で加盟組合は将来に向けて、企業と真摯に議論を尽くし、成果を挙げることができました。

―働きたい、働き続けたい産業を目指していく中で、今後のサービス・ツーリズム産業の中心的役割を担う若い人に産業の魅力を伝える活動に力を入れています

(櫻田) 私たちの産業は人と人との交流に貢献する産業であり、人々の人生を豊かにします。そして、何より平和がなければ成り立ちません。また、地域においても経済効果を



「ツーリズムEXPOジャパン2024」では、学生を主対象に旅行業の魅力をテーマにしたセミナーを実施した

もたらし、雇用を創出するなど、将来にわたって我が国にはなくてはならない産業です。

そのような中で次代を担う若い人たちに産業の魅力を訴える活動に取り組んでいるところです。大学で講演する機会をいただき、産業の魅力と存在意義を積極的に発信していますし、昨年のツーリズムEXPOジャパンでは、日本旅行業協会(JATA)との共催で「人財を惹きつける魅力ある旅行業に向けて」というテーマでセミナーを行いました。セミナーでは、旅行業界が働く人から選ばれる、さらに魅力ある産業に向けてどうあるべきかについて意見を交わしました。受講されたみなさんには、業界の将来について希望や志を持っていただけたのではないかと考えています。



航空新聞社「週刊ウイングトラベル」
嶺井政敏編集長

労働環境で悩みがある人はいつでも相談を

―サービス連合では、労働組合を持たない企業で働く人からの労働相談にも力を入れています

(櫻田) サービス・ツーリズム産業は労働時間が不規則であるなど、働き方が多岐にわたります。この産業で安心して働き続けることができるように環境を整備していく必要があると思っています。環境整備のために、悩んでいる人については、少しでもその解決につながる糸口が掴めるようなものが必要であると考えています。

サービス連合では、この産業で働くすべての人々が安心して働ける環境の整備に向けて、弁護士による無料労働相談を定期的で開催し、あらゆる人々からの相談を受け付けています。働く上で悩みや問題があれば、気軽に相談していただきたいです。

■ 顧問弁護士による無料法律相談会のご案内

昨今の目まぐるしい法改正や働き方の多様化により、企業の労務管理はますます複雑化・高度化しています。そこでサービス連合では、健全な労使関係の構築と労務トラブルの未然防止を目的として、当組合の顧問弁護士(東京共同法律事務所)による無料の電話法律相談会を開催しています。

働き方改革やハラスメント防止法など近年の法改正への実務対応、就業規則の見直し、従業員のメンタルヘルス対策、労働時間管理に関するアドバイスなど、日々の労務管理における法的疑問の解消や、今後のリスクマネジメント強化にお役立ていただけます。

対象は宿泊・旅行・貨物利用運送事業・派遣・レジャー施設で働く従業員をはじめ、経営者、役員、人

事労務責任者およびご担当者の皆様です。相談費用は無料、ご相談内容は弁護士法に基づき厳守されますので、安心してご相談ください。

【日時】 2025年11月6日(木)・12月16日(火)
2026年2月16日(月)・3月6日(金)・6月16日(火)
各日16:00～19:00

【相談方法】 電話による個別相談(おひとり40分)

【申込】 事前予約も可能です。ご予約・お問い合わせはサービス連合本部(担当: 鍵村昌彦)までご連絡ください。

フリーダイヤル: **0120-025-305**

(受付時間: 16:00～19:00)

“マレーシア観光年2026”で 豊かな自然と多文化を体感する サステナブルな旅を

マレーシアは多民族・多文化・多宗教の共生を実現している稀有な国のひとつだ。2026年を“マレーシア観光年”と位置づけ、その魅力が世界中に発信される。日本人旅行者にとっては為替や物価の面でのアドバンテージも大きく、日本では体験できないプログラムが盛りだくさんだ。



観光年で魅力の世界中に発信 新素材の登場に期待感

“マレーシア観光年2026”で注力するのは4分野だ。1つは「環境に配慮した観光地とアクティビティ」で、マレーシアの自然の驚異を責任ある観光モデルとして紹介する。2つ目は「自然保護と野生動物」。野生動物の保護活動や環境に優しい野生動物ツアーを推進する。3つ目が「文化的豊かさ」で、伝統芸術を通じて多文化遺産を紹介する。4つ目の「没入型の旅行体験」は、世界遺産を通じマレーシアの歴史と伝統を深く理解できる旅を提案する。



ウィラ



マンジャ

マレーシア観光年2026の専用のロゴやキャラクターも決定し、自然、文化、多様性、人々の温かさを、イベントなどを通じて発信する。マレーシア国内13州の観光局も新しい観光素材を作り込み、独自のプロモーションを行う。

東京のホテル並みの料金で あこがれの5つ星ホテルに滞在

マレーシアには大きなアドバンテージがいくつもある。その1つが、円安や物価高の影響が少ないという点だ。日本人旅行者にとって料金面でのメ



リットは大きい。特に安価な宿泊費は大きなメリットだ。1室2人利用であれば、東京のビジネスホテル並の料金であこがれの5つ星ホテルに宿泊が可能。物価も日本のおよそ半分で、円安の影響も比較的少ない。宿泊や食事のランクを落とすことなく、費用面の心配をせずに旅行を満喫できる。

星付きレストランから屋台まで バラエティー豊かなグルメ

マレーシアは多民族国家であるがゆえに、食のバリエーションも豊富だ。



4大グルメ（マレー料理、中華料理、インド料理、ニョニャ料理）をはじめ、ミシュランガイド掲載のレストランから東南アジアらしいエネルギーを感じられる屋台でのローカルフードまで、人数や予算、シーン、気分に合わせて選ぶことができる。

マレーシアらしさを気軽に体験できる 興味深いプログラムが豊富

マレーシアには、旅行者でも気軽に体験できるプログラムが豊富にある。



マレーシア伝統のろうけつ染め“バティック”は、人気の体験プログラムだ。マレーシアは世界有数の錫の産出国だったこともあり、錫製品のお土産が人気。ロイヤルセランゴール社のビジターセンターでは、木製ハンマーで錫を叩き出すボウル作り体験もできる。クアラルンプール中心部にあるアートハブ“GMBB”では、気鋭のクリエイターによるワークショップも開催されている。

熱帯性気候の大自然の魅力 人気のエコツアーで野生生物に出会う旅

熱帯性気候に属し、国土の約60%がジャングルというマレーシアは、その雄大な自然も大きな見どころだ。東京23区がすっぽりと入るほど広大なキナバル国立公園と、世界最大級の洞窟を有するグヌン・ムル国立公園は、いずれも世界遺産に登録されている。希少な野生生物に会えるエコツアーも人気で、絶滅危惧種のマレーグマの保護活動を見ることが出来る。



マレーシアが教育旅行先として人気の理由とは？

学校交流、多文化共生、大自然など
学生向け要素が盛り沢山

マレーシアの教育旅行素材の例

異文化交流

ブラザー&シスター (B&S) プログラム

日本語を学ぶ現地の大学生が生徒たちの活動に同行・案内する。学校交流との組み合わせも可能。

カンボン(村落) ビジット／ステイ

受け入れ可能な場所が全国に242地域、宿泊可能な村は579カ所（2025年7月現在）もある。B&Sやカンボンビジットは地元の人々と深く交流できるプログラムのため大変人気で、マレーシアを訪れる多くの学校が旅程に組み込んでいる。



自然学習

植樹や自然保護プログラム

ホームステイ可能なすべての地域で植樹や自然保護活動に参加可能。

キャノピーウォーク(森林体験)

地上30～40mの高さから熱帯雨林の樹木を間近に観察できる施設が、クアラルンプール市内をはじめ全国各地にある。



歴史・文化体験

モスク見学

さまざまな宗教建築を見学できるが、日本であまりなじみのないイスラム教のモスク見学は、異文化体験という観点からもおすすめ。

世界文化遺産

世界遺産のマラッカとジョージタウンでは、東西貿易の中継地として栄えた歴史はもちろん、欧州列強に支配された歴史を持つ複雑な文化の成り立ちを学べる。

短期語学研修

近年は学年で実施する教育旅行のほか、希望者を対象とする語学研修を実施する学校も多い。語学だけでなく多文化・多様性を学べるマレーシアは、短期研修にも適している。



マレーシアが教育旅行で人気を集める6つの理由

安心・安全な環境

マレーシアは東南アジアで最も経済的・政治的に安定した国の1つ。多民族・多宗教が共生するモデル国家とされるほど平和な社会を築いている。

旅費・滞在費が割安

教育旅行は費用に一定の制限があるが、マレーシアは物価が安くコストを全般的に低く抑えられる。航空運賃も距離が近いいため比較的安い。

日本から近く時差も最小限

日本から直行便で約7時間、時差は1時間と最小限だ。距離の近さと時差の少なさは身体的負担が軽くなるため、現地での滞在を充実させる重要な要素でもある。

英語環境が整う

民族によって言語が異なるマレーシアでは、英語は大切な共通言語であり、国語のマレー語に続く第二言語でもある。英語教育のレベルも高い。

豊富な体験学習素材

現地の学校は日本の学校との交流に積極的で、伝統的な生活を体験できるカンボン（村落）ステイの受け入れ態勢も整っている。また、大自然での体験も豊富だ。

ホテルやインフラの充実

国内外の旅行者の増加に伴い、観光・交通インフラが拡充された。グローバルブランドホテルの進出により、宿泊施設もハード・ソフト両面で大きく進化。

オラン・アスリから自然との共生を学ぶ新たな体験素材“ジャングルスクール”が登場

マレーシアで文化と自然の両方を体験できる教育旅行向けの新素材として、“ジャングルスクール”が登場した。オラン・アスリ＝先住民族からジャングルで生きる知恵などを楽しみながら学べる体験型プログラムだ。オラン・アスリ博物館の見学のほか、ジャングルでオラン・アスリから動

植物の種類、罌の作り方、火の起こし方を学ぶプログラムなどが含まれる。クアラルンプールから車で30分程度で到着できる立地の良さに加え、半日コースと1日コースがあるため、旅程に合わせて組み込みやすいのも魅力だ。



アルパインツアーとゴールドウインの人的交流を盛んに 旅行業の本来の魅力に再び光をあてるシナジーとは

スポーツ・アウトドアウェアメーカーのゴールドウイングループの一員となり、新たなスタートを切ったアルパインツアーサービス。国内外のアクティビティツアーの先駆者として確固たる地位を築いてきたアルパインツアーが、さらに大きなスケールで事業を展開していく。



親和性の高い異業種グループ入りで 新たな形でのチャレンジ

アルパインツアーは過去30年にわたり、ゴールドウインが扱う「THE NORTH FACE」ブランドを冠したツアー等を販売するなど、良好な協業関係を築いてきた。「モノづくり」を手掛けてきたゴールドウインが、「コトづくり」や「環境づくり」といった新規事業の展開を視野に入れ始めたことから、アルパインツアーをグループ会社化し、この分野でのチャレンジを推し進めていくことになった。

アパレル業界と旅行業界は、一見すると接点は多くない。しかし、アルパインツアーのゴールドウイングループ入りは、トップ同士が「目指すものが同じ」と高い親和性を見出して実現した背景があるため、単なるグループ内会社の関係ではない。その結果、旅行業界だけでは難しかったコラボレーションや、新しいツアーの企画が生まれる下地ができつつある。

人的交流の活性化によって 互いに高まる2社のブランド価値

最も高い効果を期待されているのが、人的交流が生まれる



ことだ。例えば、ゴールドウインの直営店に勤務する社員が、アルパインツアーが主催するツアーにスタッフとして同行する。自社製品に袖を通し、高所や極地も含めた様々なフィールドでの実体験が増えることで、実際の商品説明の際の説得力が大幅に増す。アルパインツアーの芹澤健一取締役は、「自分自身の五感で体験することが旅の本来の醍醐味。ゴールドウインのスタッフがアウトドア体験を増やしていくのは素晴らしいこと」と目を細める。

アルパインツアーの藤井知一代表取締役社長は、「忘れてはならないのは、ゴールドウイン製品の販売や開発、そしてツアーリーダー業も、すべて“人”が行っているということ。AIなどデジタルに頼る部分はあるが、人を通じて、お客様に丁寧に両ブランドを伝えていくことが最も大切なこと」と力を込める。芹澤氏も「どんなにデジタルが進化しても、旅行業や山旅は最終的には人が作り出す仕事。この点は両社にとって重要」と話す。今後は、ゴールドウインとアルパインツアーの両ブランドの価値を高め合うためにも、人的交流をさらに活発化させていく方針だ。



藤井知一代表取締役社長



芹澤健一取締役

「世界初」を生み出し続けて56年 色褪せない世界を駆け巡る魅力

アルパインツアーの創業は1969年。日本人として初めてマッターホルン北壁を登頂した登山家・芳野満彦氏が、ヨーロッパアルプスへのハイキングツアーを実施したこの年が実質的な創業年である。創業から56年の間には、山旅に専門特化しつつ、中国～ネパール国境越えや南極クルーズなど、数々の「世界初」「日本初」ツアーも企画・催行してきた。

アウトバウンドに沈滞ムードさえ漂う今の旅行業界だが、新体制で再スタートを切ったアルパインツアーには、山旅の

パイオニアとして数々の世界初を生み出していた頃のエネルギーが感じられる。大きなスケールでオペレーションをできる次世代を担う若い人材が、アルパインツアーからだけでなくゴールドウイン側から出てくる可能性もある。芹澤氏が「若いときに異文化体験をするのとしなないとでは大きな差が出る」と語るように、旅行業の仕事は自分を高めるうえでも魅力的なものだ。体験価値の創出が求められる現代だからこそ、地球規模で物事を考え、世界を駆け巡る旅行業の魅力は色褪せない。アルパインツアーとゴールドウインのシナジーが、その魅力に再び光をあててくれるはずだ。

ツアーリーダーが同行する 日本発着の包括パッケージツアー

アルパインツアーの商品の大きな特徴は、ツアーリーダーが同行する日本発着の包括パッケージツアーであるという点だ。ツアー内容も、山に登ることだけを目的にするのではなく、山とその周辺に住む人々と暮らし、その地の歴史や文化を体験できる素材が盛り込まれている。これは2018年頃から日本でも注目されるようになったアドベンチャーツーリズムに他ならないが、アルパインツアーは時代を半世紀も先取りしていたと言えるだろう。創業以来、ツアー参加者が帰国後に「行ってよかった」と高い満足感を口にして背景には、スタッフが情熱を注いで丁寧に作り込んだ商品の力があつたからに違いない。



さらに、アルパインツアーには、ともに商品を作ってきたパートナー企業の世界的なネットワークがある。ツアーを催行することでスタッフやガイドの雇用が生まれるため、現地の経済に貢献する。これもアルパインツアーが創業から大切にしてきた価値観であり、同社のブランド価値を高めてきた大きな要素のひとつである。

花や野鳥などを観察するネイチャリングツアーや 国立公園で新たな体験価値の提供も

山旅の専門特化集団であるアルパインツアーだが、企画は登山ツアーだけではない。あるがままの自然を観察する「ネイチャリングツアー」として、国内外の花を観察する「花旅ハイキング倶楽部」や「花の観察会」、野鳥や海鳥を観察する「鳥の観察会」といった企画も定番コースとして定着している。また、同じ登山でも空や雲に着目した「空見ハイキング」や山岳写真の愛好家が集う「山旅フォト倶楽部」のように、テーマ性のある山旅も手掛けている。いずれも登山ツアーと同様に、それぞれの分野に精通したツアーリーダーが同行する。



そして、地球と遊ぶことをコンセプトとする「PLAY EARTH ADVENTURE」は、日本が世界に誇る国立公園をフィールドとしてさまざまな体験価値を提供する、ゴールドウインが挑む新しいプロジェクトだ。ゴールドウイン傘下に入った



ことで、アルパインツアーはこれらのプロジェクトで中心的な役割を担い、新しい旅の形を生み出していく。「アウトドアブランドから生み出される“体験と場の提供”を作り出していく旅やアクティビティなどを旅行業として新たに取り組むには、企画から手配、ツアー運行、ガイドやツアーリーダーまで、幅広い人材を業界内外から募ることになる。」と藤井氏は力を込める。

世界の山を舞台にツアーを展開してきた アルパインツアーがインバウンド事業に着手

アルパインツアーは、専門特化してきた長い歴史の中で、現地の手配を請け負うパートナー企業との関係を構築してきた。世界中のパートナー企業の多くが今、日本でのアクティビティツアーを検討している。アルパインツアーは、パートナー企業がアルパインツアーの商品で提供してくれた役割を



日本で担うべく準備を進めており、パートナー企業に組み込んでもらう日本でのツアーは形が固まりつつある。芹澤氏は、「外国人旅行者の圧倒的多数が興味を持つのは日本の文化。詳細はまだ明かせないが、アルパインツアーが手

掛ける日本のツアーは日本を『歩く』ものになる。山を歩き、里山を歩く。そこで地域の歴史に触れ、人々と交流し、里山文化を楽しんでもらいたい」と目を輝かせる。また、ゴールドウインは現在、環境省とともに日本の国立公園を世界に発信していく事業に着手しているが、インバウンド事業においてもアルパインツアーと共にこの分野をさらに拡充していく計画がある。世界の山を舞台にツアーを企画・催行してきたアルパインツアーが、満を持して世界の人々に提供する「日本を歩く旅」。期待は高まるばかりである。

お問い合わせは

アルパインツアーサービス株式会社
観光庁長官旅行業第490号/一般社団法人日本旅行業会 正会員  ホンダ保証会員

本社/〒284-0001 千葉県四街道市大日420-3 (八洲ビル2階)

Tel: 043 (290) 9699

E-mail: info@alpine-tour.com

www.alpine-tour.com



国土交通大臣賞はKURABITO STAYの酒蔵ホテル企画が受賞

ツーリズムEXPOジャパンの主催団体である日本観光振興協会、日本旅行業協会、日本政府観光局は今年のEXPO開催に先立ち「ジャパン・ツーリズム・アワード」の受賞取組を発表した。国土交通大臣賞にはKURABITO STAYの酒蔵ホテルの取り組みが、経済産業大臣賞には、北海道道東エリアの観光事業者など9社・団体で構成する「ひがし北海道観光DXプラットフォーム」の取り組みがそれぞれ選出された。

また、観光庁長官賞には愛知県立足助高等学校、シークルーズ、wondertrunk&co.の3団体を選出。実行委員長賞にはトルコ共和国大使館文化広報参事官室とターキッシュ エアラインズの取り組みが選ばれた。

UNツーリズム特別賞にはウズベキスタン国家観光委員会と認定NPO法人みちのくトレイルクラブの取り組みが選出された。このほか、審査委員特別賞に23団体、「学生が選ぶジャパン・ツーリズム・アワード」に2団体、入賞取組みとして14団体が選ばれた。

なお、表彰式は9月25日の「ツーリズムEXPOジャパン2025愛知 中部・北陸」の開会式で実施される。



経済産業大臣賞は、「ひがし北海道観光DXプラットフォーム」

観光庁長官賞には「足助高等学校」、「シークルーズ」、「wondertrunk&co.」

国土交通大臣賞を受賞したKURABITO STAYの取り組みは、外国人旅行者にも人気の高い日本酒・酒蔵を切り口に地域全体で観光資源としての磨き上げを図る持続可能な地方創生モデルとして、文化継承への貢献も加え高く評価された。

経済産業大臣賞を受賞したひがし北海道観光DXプラットフォームの「ひがし北海道・交通事業者がつなぐエリアまるごと観光DX」は、広域連携によるデジタル基盤の共通化と観光DXの取り組みとして優れた事例であることや、経営の効率化と利用者の利便性向上を図りつつ新たな観光需要を取り込んだことが、二次交通の課題を抱える他の地域にとっても再現性のあるモデルとして高く評価した。

観光庁長官賞に選出された足助高等学校観光ビジネスコースによる「『高校生トラベル』ブランドを核とした関係人口創出と観光産業人材育成、持続可能な観光推進モデル」は実践的で多様性のあるプログラムや地域内外との連携などが高校

レベルの観光教育として模範になる取り組みとして評価された。

シークルーズの「人口2.3万の街で地場企業投資60億円を生み出す！『鉄道×航路が地域を変えたデザイン&ストーリー』」は、二次交通など現状のアクセス課題を改善し、より魅力的な美しい国立公園内のルート化を図って広域の観光振興を創出させようとする試みが評価された。

wondertrunk&co.の「富山を世界のデスティネーションへ：地域一体のモダンラグジュアリー戦略の推進～富山県が4年でNY Timesの行くべき52の場所に出選されるまで～」は、欧米の高付加価値層にターゲットを絞ったメディア戦略や地域のツアー造成支援を行っており、戦略性、行政・民間・DMO間の連携の良さ、個々の取り組みの質の高さなどが高く評価された。

実行委員長賞に「トルコ共和国大使館文化広報参事官室／ターキッシュ エアラインズ」

UNツーリズム特別賞、「ウズベキスタン国家観光委員会」と「みちのくトレイルクラブ」

実行委員長賞のトルコ共和国大使館文化広報参事官室／ターキッシュ エアラインズの「南東トルコの需要創出への取り組み」は、特定のマーケットをターゲットとして、官と民が連携して、積極的にデスティネーション開発を行う方法や内容について日本も見習うべき点があり、観光振興の取り組みを継続的に行っていることを評価した。

UNツーリズム特別賞を受賞したウズベキスタン国家観光委員会の「観光村プロジェクトー貧困削減と持続可能な観光開発ー」は地域の自然・暮らし・文化・伝統を尊重し活かしつつ、官民で連携して観光地としての魅力を高め、雇用機会を創出し、持続可能な観光と地域の長期的な発展に取り組んでいる点が優れているとした。

みちのくトレイルクラブの「みちのく潮風トレイル～海を見ながら歩ける1000キロ みんなで育てる長く歩く旅の道」は東日本大震災からの復興に向けて、広域のさまざまな関係者が連携・参画して取り組んでいる点やトレイルとそこから生まれる人々との交流を通じて、その土地の自然や歴史、文化

の継承を図っている点も評価した。

あわせて「学生が選ぶジャパン・ツーリズム・アワード」として2点が選定された。

1点目は、国土交通大臣賞を受賞したKURABITO STAYの取り組み。もう1点には、審査委員特別賞を受賞したJTB高松支店の「『クセモノは地域のタカラモノ』SICSサステナブルラウンジ」が選ばれた。

JTB高松支店の取り組みは、地域で活用されていなかった食材を上手に取り入れ、フードロスの削減に貢献しているだけでなく、学校など教育現場を巻き込んで地域づくりを進めている点が印象的で評価できるとした。

今回の応募件数は213件（自薦198件、他薦15件）で国内外から数多くの優れた取り組みの応募があった。この中で受賞した取り組みは、持続可能な観光への取り組みに加えて、ツーリズムのチカラにより地域産業の維持・発展に貢献し、かつ地域へのモデルとなり得る取り組みが多くみられたとしている。

国土交通大臣賞

株式会社 KURABITO STAY



取組名：
酒蔵から始まる、地方創生と日本酒ツーリズムの可能性を創る酒蔵ホテル®「KURABITO STAY」

経済産業大臣賞

ひがし北海道観光 DX プラットフォーム



取組名：
ひがし北海道・交通事業者がつなぐエリアまると観光DX

観光庁長官賞

- 愛知県立足助高等学校 観光ビジネスコース
「高校生トラベル®」ブランドを核とした関係人口創出と観光産業人材育成、持続可能な観光推進モデル
- 株式会社シークルーズ
人口2.3 万の街で地場企業投資60 億円を生み出す！
「鉄道×航路が地域を変えたデザイン＆ストーリー」
- 株式会社wondertrunk&co.
富山を世界のデスティネーションへ：地域一体のモダンラグジュアリー戦略の推進
～富山県が4 年でNY Times の行くべき52 の場所に選出されるまで～

実行委員長賞

- トルコ共和国大使館文化広報参事官室／ターキッシュエアラインズ
南東トルコの需要創造への取り組み

UN Tourism 特別賞

- ウズベキスタン国家観光委員会
観光村プロジェクト－貧困削減と持続可能な観光開発－
- 認定NPO 法人みちのくトレイルクラブ
みちのく潮風トレイル～海を見ながら歩ける1,000 キロ みんなで育てる長く歩く旅の道～

学生が選ぶジャパン・ツーリズム・アワード

- 株式会社KURABITO STAY
酒蔵から始まる、地方創生と日本酒ツーリズムの可能性を創る酒蔵ホテル®「KURABITO STAY」
- 株式会社JTB 高松支店
「クセモノは地域のタカラモノ」 SICS サステナブルラウンジ
- 審査委員特別賞
- 北海道エアポート株式会社 釧路空港事業所
滑走路から見る満天の星と航空灯火
- 伊勢志摩フィルムコミッション
伊勢志摩フィルムコミッションのスクリーンツーリズム
～地域と作品の架け橋（聖地巡礼から海外発信まで）～
- 株式会社郡中トラベル
「交通・観光連携型事業（地域一体となった観光地・観光産業の再生・高付加価値）」計画
- 一般社団法人 美浜まちラボ
野間灯台登れる化プロジェクト
- 一般財団法人 矢掛町観光交流推進機構
限界集落におけるキャンプ施設と一時避難所の運営
- 株式会社金沢アドベンチャーズ
復興支援と持続的な観光地づくりを目指す「行かないと!能登」旅して応援バスツアー
- 株式会社JTB 高松支店
「クセモノは地域のタカラモノ」 SICSサステナブルラウンジ
※「学生が選ぶジャパン・ツーリズム・アワード」とのダブル受賞
- 一般社団法人ツーリズムとよた
市民参加・全国発着連携による着地型豊田市ユニバーサルツーリズムの推進

- 平戸市アルベルゴ・ディフーズ推進協議会
アルベルゴ・ディフーズ推進事業の取り組み
- 喜入子育てコミュニティ KADAN
草刈りツーリズムプロジェクト
- SUZU GROUP（有限会社 寿々瀧）
新潟の日常を編集して伝える、地域の風土を味わうラジオ・ガストロノミーツーリズム
- JR西日本グループ、KNT-CTホールディングスグループ、株式会社クオラス、福井銀行グループ、京福バス株式会社
福井エリアの地域課題解決のための「新感覚 XR バス WOW RIDE いこっさ！福井号」の導入
- THE TOKYO PASS - Cultureプロジェクト（事務局：株式会社丹青社）
東京都内での文化観光をより快適・豊かにするための訪日外国人向けサービス「THE TOKYO PASS - Culture」
- Smile∞Ribbon（スマイル∞リボン）
神秘の光・海ホテル!!
淡路島の安全なビーチで「世界初！ココだけ！の海ホテルショー」を開催！
- 佐賀県関係人口創出チャレンジ事業協議会
ロマンシング佐賀10周年
- 株式会社JTB、一般社団法人 次世代教育ネットワーキング機構
全国で地域観光DX人材育成のための学びの場を提供、地域の中高校生がデータを駆使して地域の未来を切り拓く！～未来探究ゼミナール・未来探究祭～
- 八女商工会議所
八女福島観光プロジェクト～八女茶・地域伝統産業×古民家による体験×滞在型観光の創出
- 琵琶湖疎水沿線魅力創造協議会
現役のインフラとして産業・文化を支える「琵琶湖疎水」の沿線魅力の創造と観光の分散化
- 株式会社瀬戸内しまなみリーディング
「国指定史跡能島城跡上陸・潮流クルーズ」無人島上陸5000人
～未来へ紡ぐ「現地ガイドの情熱」と「地域連携」～
- 佐賀県フィルムコミッション
マレーシアへのロケ誘致活動及び観光誘客について
- 株式会社JTB、アサヒビール株式会社、ニッカウヰスキー株式会社、青森県弘前市
ひろさき縁農プロジェクト～弘前市のりんご産業支援を通じた地域活性化を目指して～
- 遠野ふるさと村
遠野ふるさと村 どべっこ祭り
- 一般社団法人SOE
新潮流：「伝統×異業種」が育む、持続可能な地域のリジェネラティブ・ツーリズム
- 入賞
- 丸駒温泉株式会社
ノー電力サウナ「国立公園満喫サウナ」オープン
- 暮らしの宿 福のや、
農業×観光×空き家～農家と観光事業者が連携した持続可能な観光地域づくり～
- 株式会社高速オフセット
海外配送をもっと手軽に。購入機会の創出でインバウンド需要を拡大！「ハコボウヤ」
- 株式会社ガイア
地域資源を活かした新しい宿泊と持続可能な地域づくり
- 株式会社パークフォアス
外国人向け剣道体験ツアー「SAMURAI TRIP」
- 一般社団法人 東北観光推進機構
東北広域一体となったガイド育成の取組み
- 箱根ランフェス実行委員会
箱根ランフェス～持続可能な競わぬ地域スポーツの挑戦～
- 一般財団法人 沖縄観光コンベンションビューロー
地域の未来を描く観光データプラットフォーム:おきなわ観光地域カルテ
- オリックス・ホテルマネジメント株式会社・株式会社西武・プリンスホテルズワールドワイド
共同配送
- 株式会社 USPジャパン
～ロケットツーリズムの推進～
「世界が認める自然と歴史と最先端、全部盛りの南紀熊野体験旅」
- 沿線まると株式会社
沿線まるとホテル「Satologue（さとログ）」
- 合同会社 RDND
INOW：学びのある滞在を通じて、地域から循環型の未来を育む
- 一般社団法人 紀州体験交流ゆめ倶楽部
官民連携で体験型観光を推進し、和歌山県日高地方の活性化に取り組む
- 東信観光サービス／伝統文化体験の宿つたや（有限会社 岩崎呉服店）協同チーム
～『機織りや竈ご飯』懐かしい里山暮らし体験と狛師さんの案内で里山を歩いて森の多様性に触れあう旅～



THAILAND REPORT

タイランド レポート

2025.Vol.80

Amazing Thailand Seven Wonder アメージング・タイランド・セブンワンダーを発表

—7つの戦略的アプローチでタイ旅行需要を拡大へ—

タイ国政府観光庁(TAT)東京事務所の新しい所長として8月1日付でセークサン・スィープライワン氏が着任した。訪タイ日本人旅行者数は昨年、コロナ禍以来5年ぶりに100万人の大台を達成。需要回復をさらに勢い付けたいタイミングで着任した新所長には、日本・タイ両国の観光産業から大きな期待が集まる。日本勤務が3回目で日本市場を熟知する新所長に、日本市場におけるプロモーション戦略などについてインタビューした。



まずは日本の業界との パートナーシップを強化

東京事務所所長として前回日本に赴任した際は、すぐにコロナ禍が始まりその対応に追われました。その後、タイへ帰り国内旅行需要の復活に取り組んできましたが、国際旅行の環境が戻ってきたいま再び日本に戻り、前回できなかった挑戦に取り組めるのはとてもエキサイティングです。

日本の旅行業界の皆さんとのパートナーシップを改めて強化し、旅行会社や航空会社、メディアとの信頼関係をこれまで以上に深いものにしていきたいと思っています。

次の海外旅行先の第一候補を タイに

私の役割はいうまでもなく日本の訪タイ旅行市場を再活性化することですが、同時にそれは両国のツーリズムのバランスを適正化することにつながります。日本とタイは長い交流の歴史がありますが、現在はタイがツーリズムの赤字を抱えている状態で、訪タイ日本人旅行者数が訪日タイ人旅行者数を下回っています。

2国間の観光における相互利益は必ずしも旅行者数だけで計れるものではありませんが、2023年に日本を訪れたタイ人旅行者数は99万5000人だったのに対し、タイを訪れた日本人旅行者数は84万8000人とどまりました。このタイの赤字を解消し、より良いバランスを実現することが必要です。

東京事務所所長として重要な仕事は、日本人旅行者の皆さんの次の海外旅行先の第一候補をタイにすることだと考えています。

2025年は 訪タイ日本人125万人を見込む

日本の国際旅行市場を取り巻く環境は複雑です。円安は訪日旅行者の背中を押したタイ人旅行者を含む多くの外国人旅行者が日本を訪れています。一方で円安は日本人旅行者の海外旅行の足かせとなっています。

また日本により近いショートホールのデスティネーションがタイを脅かします。円安で少しでも費用を抑えたい日本人旅行者にとっては台湾や韓国、ベトナムなどがタイの競合デスティネーションとして旅行者数を増やしています。

それでも訪タイ日本人旅行者数は今年も増えると予想しています。2025年は1月から7月までで60万人台となり、12月までの1年間では125万人を見込んでいます。またTAT本部では2026年の目標として132万人を掲げています。

タイのソフトパワーを前面に 打ち出す

TATは訪タイ旅行者の拡大へ向けた挑戦にあたって、イマーシブな(没入感のある)体験を重視しています。オーセンティックなタイの文化、タイが持つウェルネスやリラクゼーションの力、シンプルな観光といったタイの魅力によりイマーシブな体験として提供することを重視しています。

またタイのソフトパワーの魅力を取り込むことも重要な方針となっています。具体的にはタイのドラマやタイのポップカルチャー、ポップミュージックが有望です。日本でも2年ほ

ど前からタイのボーイズラブのドラマなどが話題になり、若者世代をタイ旅行に誘致する力として期待できます。

さらにFIT旅行者に欠かせないSNSによって生成される各種コンテンツの活用を重視しています。若者世代では新デスティネーションを探す際に8割以上がInstagramやYouTube、XといったSNSを使って探しています。そしてOTAで旅行の価格を比較するのが行動パターンです。TATもデジタルメディアを使った新しい仕掛けを工夫し、展開していく考えです。

アメージング・タイランド・ セブンワンダーを実施

タイの競合デスティネーションは価格戦略を中心に据えています。TATは価格だけでなく価値に重きを置き「プラス・モア・バリュー」を掲げ旅の満足感に訴える方針です。その方針のもとで日本市場の活性化を実現していくために、今年10月からスタートする2026年度の日本地域のプロモーション戦略として「アメージング・タイランド・セブンワンダー」のコンセプトを打ち出します。

若者にはアニメやキャラクター、 ビジネスマンにはワーケーション、 シニアにはウェルビーイングで アプローチ

セブンワンダーの内容はこう考えています。①アニメ&キャラクター・プロジェクトの開始。主な対象は若者世代。タイのイラストレーターが描くキャラクターの魅力で日本の

若者を惹きつけます。たとえば日本でもキャラクターグッズが販売されるほど人気の「マムアンちゃん」が牽引役です。また日本のアニメ作家にタイを訪れてもらい発信してもらう仕掛けも検討します。

②**タイのポップカルチャー**をアピールします。最近日本でも人気のタイのドラマをはじめとするソフトパワーを生かして、タイ初心者を取り込みます。対象となる旅行者層はファーストビジターや学生、デジタルノマドなどです。

③**タイランド・ブレイケーション**。タイを訪れる日本企業のビジネストラベラーに対して、ビジネス、レジャーとバケーションを組合わせた旅を提案します。



タイランド ゴルフトラベルマート2025開催

タイランドゴルフトラベルマート(TGTMT)が9月14～18日の3日間、タイ東北のナコーンラー



チャシーマー県カオヤイで開催され、世界各国から約150社のゴルフ関連企業などが集結。日本からは10社が参加した。

タイ女子旅ナイトin金沢開催

TATは2019年以来、2回目となる「タイ女子旅ナイトin金沢」を10月3日に金沢市で開催する。



地元フリーペーパー「FAVO」との共催で石川県庁が協力。タイ旅行の魅力を語る地元インフルエンサーのトークショーを予定。

北海道の5校が タイ教育旅行視察ツアーに参加

TATと北海道庁、タイ国際航空が8月26日～29日の日程でタイ教育旅行視察ツアーを実施し、北海道の高等専門学校と高等学校の計5校の教員が参加した。現地ではバンコクやアユタヤの観光地を視察するのみではなく、タイの高等学校を訪問しタイの先生と

④**タイのウェルネスの魅力**を訴えます。手頃な料金で国際水準のスパやリラクゼーションを体験できる強みを生かし、シニア世代や女性層を取り込みます。

スポーツツーリズムも展開

⑤**スポーツツーリズム**は各種スポーツイベントを活用したプロモーションです。ゴルフ大会やバンコク・インターナショナル・マラソンが代表的イベントです。とくに日・タイ修好140周年を両国政府で祝う2027年に向けて、友好を育むスポーツイベントが増える見込みで、この機会を生かします。

⑥**SNSやウェブサイトを通じたデジタル・ブランディング**は重要な仕掛けの一つです。新たなプラットフォームを作り、スペシャルキャンペーンを実施し、若者世代や女性層に働きかける仕掛けです。

ちと交流を図ったほか、最終日にはタイ国政府観光庁の本庁へも訪問した。来年1月にはツアーに参加した教員によるプレゼンテーションを含む教育旅行セミナーを開催する予定。



「タイ教育旅行ガイド」を刷新

TATは「タイ教育旅行ガイド」の内容を改訂。タイでの異文化体験や学校交流、SDGsに基づく社会活動の実践等の教育プログラムを掲載。タイで教育旅行を実施した高等学校や大学の事例を、教員のコメントも含めて紹介。TATウェブサイト(<https://www.thailandtravel.or.jp/common/pdf/schooltrip2025.pdf>)からダウンロード可能。



電子版タイウェルネスガイドを作成

TATはタイウェルネスガイドの電子版「THAIRAPY(タイラピー)」を作成。心と体を整えるタイの癒し旅をテーマにした5つの旅を紹介している。旅のテーマは「スパ・ヘブン」「ホットスプリング・セレンティ」「ネイチャー・リトリート」



ツーウェイツーリズムで 航空座席問題の解消へ

⑦**ツーウェイツーリズム**は日本とタイの観光交流の活性化に不可欠です。コロナ禍後は航空機材の不足とオペレーションコストの上昇で航空座席の確保が課題になっています。コロナ禍前のピークよりシートキャパシティが3分の1近くに減少するなか座席供給を何としても増やす必要があります。取り組むのは中小都市同士を結ぶ路線の開設です。両国の地方には規模は大きくなくても魅力的な街があり、それらを結ぶことを目指します。たとえば仙台とウドンターニー、またはコーンケーンを結ぶような航空路線です。他にも日本の山形や静岡とタイの地方都市を結ぶ路線にも可能性があると考えています。日本とタイでは旅行シーズンも異なり、お互いに補完することで路線を安定化できると期待しています。

「オーガニック・リビング」「インナー・ピース・ジャーニー」となっている。

<https://www.thailandtravel.or.jp/news/152676/>

「ロイクラトン祭り」 今年は11月5日開催

毎年タイの旧暦12月(現在の10月または11月)の満月の日に行われる「ロイクラトン祭り」はタイで最も美しい祭りのひとつと言われるが、今年は11月5日(水)の開催が決まっている。



タイ観光大使「佐藤三兄弟」が バンコク、 チャム&ホアヒン取材

タイの観光大使を務める「佐藤三兄弟」綾人、颯人、嘉人の3人が、エアー・ジャパンの協力でタイを取材。訪れたバンコク、チャムやホアヒンなどの最新情報を盛り込んだYouTubeコンテンツが間もなく公開となる予定。



東京事務所 〒100-0006 東京都千代田区有楽町1-7-1 有楽町電気南館ビル2F TEL 03-3218-0355

大阪事務所 〒550-0013 大阪市西区新町1-4-26 ニッケ四ツ橋ビル TEL 06-6543-6654/6655

福岡事務所 〒812-0027 福岡市博多区下川端町2-1 博多リバレインイーストサイト11F TEL 092-260-9308

<http://www.thailandtravel.or.jp/> (日本語) <http://tourismthailand.org/> (英語)

f タイ国政府観光庁

LINE @tat.jp

X @AmazingThaiJP

Instagram @amazingthailandjp

MICEデスティネーションとして 世界の注目を集めるタイ

その人気の理由とは



ASEANのハブシティ 「バンコク」の地理的優位性

ASEANの中心地であるタイは、日本からのフライトも多く、供給座席数も豊富。世界中からの利用客の受入実績を誇り、大型団体でもキャパシティに問題はない。周辺各国への路線網も充実しており、ゲートウェイである「バンコク」に加え、「チェンマイ、プーケット、パタヤ、ホアヒン」を「主要MICEシティ」と位置してプロモーションしている。

伝統と革新が調和する 豊富なベニュー 新しい施設が続々とオープン

新しい施設が続々とオープンし、進化を続けるタイのMICEベニュー。1万人を超える団体にも対応可能な大型施設をはじめ、少人数向けのVIPサービスを提供する宿泊施設も多数ある。歴史的建造物、ビーチやジャングルなど、ユニークな場所をバンケット会場として使用でき、予算やテーマ、団体のニーズに応じて使い分けができる施設が揃う。

タイらしい体験 CSRやSDGsの達成にも

歴史や文化、食やショッピングなど、タイの持つデスティネーションの魅力に加え、次々と新しいものが創り出される先進性もタイがMICEデスティネーションとして選ばれ続ける理由のひとつ。そんなタイでのアクティビティを通じてCSR（企業の社会的責任）やSDGs（持続可能な開発目標）の達成とチームビルディングのプログラムを組み合わせたアレンジも可能だ。

タイ・バンコクならではの特別なアクティビティ体験

バンコクは多様なMICEニーズに応えられる都市である。チャオプラヤー川沿いに寺院、ショッピングモール、五つ星ホテルが集中しており、旧市街にも近い。会議中心のイベントの場合は、公共交通による移動が便利で、ホテルやコンベンション施設も多数あるスクンビットエリアが最適。さらに、新たな商業開発「One Bangkok」や「Central Park Bangkok」が市中心部に誕生しており、高級ブランド店やホテル、商業施設が入っているなど、多彩な会場選択肢がある。またタイらしさを体験できる歴史や文化、ウェルネスを活かしたアクティビティが充実している。

世界初のムエタイスタジアム

ラジャダムナーン・スタジアム



本場ムエタイを観戦できるスタジアムで、プライベートバーを備えたVIPラウンジ（約60～70人収容）やスタジアム全体の貸し切りもできる。エアコン完備、没入型の映像エンターテインメントの導入など観光客が楽しみやすい環境を整えている。

<https://rajadamnern.com/>

ハーバルボール作りやマッサージ体験

チェタワン(ワット・ポー) タイマッサージスクール



涅槃寺として有名な「ワット・ポー」はタイマッサージ発祥の地。その医療学校の一部で、オリジナルのハーバルボール作りや、セルフマッサージなどのグループワークショップをプロから学ぶことができる。

<https://watpomassage.com/>

オリジナル「ヤードム」作り

ホンブルン バイ バイホル



タイの伝統家屋を改装した古民家カフェで、タイハーブの知識や効能のレクチャーに加え、自分だけの香りを調合した「ヤードム」作りができるワークショップ。10～25人程度のグループに対応。伝統医学の名家で2代目のYakhom Tra Baihorが運営。

<https://www.instagram.com/homprungbybaihor/>

ゴルフエンターテインメント施設

トップゴルフ メガシティ



大型画面を利用したゲームや食事を楽しむソファブースなど、エンターテインメントとしてのゴルフが楽しめる施設。大型バーや、BBQエリア、プロによるゴルフレッスンエリア、カンファレンスエリアもあり、チームビルディングやイベントに活用できる。

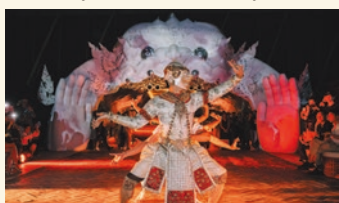
<https://topgolfthailand.com/>

バンコクのナイトライフの代名詞 ルーフトップバー

バンコクを上空から眺めるルーフトップバーの一部をご紹介します

アカラ・スカイ・ハヌマン バンコク・ルーフトップバー

Akara Sky Hanuman, One City Centre



タイの叙事詩に登場するキャラクター「ハヌマン」の口をモチーフにしたデザインが印象的。バーの天井に、壁画を模した装飾が描かれているなど、タイの伝統芸能を大胆にアレンジして採り入れている。

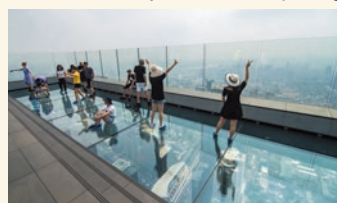
ノブ・バンコク Nobu Bangkok, The Empire



バンコク中心部にある60階建てのエンパイア・タワーの最上階にあり、眼下にはチャオプラヤー川、お寺、そして光り輝く夜景と、バンコクの絶景が広がる圧巻のロケーション。大型スクリーンを活用した演出もできる。

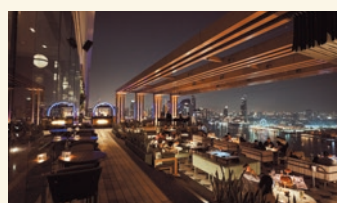
マハナコーン・スカイウォーク

Mahanakhon Skywalk & Rooftop Bangkok



キングパワー・マハナコーンビル of the 最上階、314mの高さを誇るタイで1番高いルーフトップバー。ミシュランで星を獲得したニューヨークのレストランで経験を積んだシェフによるディナーを楽しめる。

シーン レストラン&バー SEEN Restaurant & Bar



アヴァニ・リバーサイド・バンコク・ホテルの26階、チャオプラヤー川と、その向こう側に広がるバンコクの素晴らしい夜景が一望できるルーフトップバー。ゆったりと落ち着いた洗練された雰囲気が魅力。

タイと日本の深い関係を背景にビジネス開発が進むバンコク

バンコクでは鉄道を中心に都市開発が進み、日本との関わりが深まっている。エアポート・レール・リンクや地下鉄MRT、高架鉄道BTSなど公共交通が整備され、国際協力機構（JICA）は1990年代から都市圏鉄道の開発を支援。ブルーラインやレッドラインなどが日本の協力で完成した。タイ運輸省鉄道局はJICAや国交省、阪急電鉄らとともに路線を280キロから600キロ超へ拡大する計画を進めており、環境改善や渋滞緩和、移動効率向上が期待される。電化やハイブリッド車両導入など持続可能な交通への移行も始まった。一方、こうした投資の追い風で日系ホテルの進出も相次ぐ。2025年にはグランドニッコーやプリンス系の新ホテルが開業予定で、ラチャダムリ地区では大林組や西武系のプロジェクトも進行。西鉄ホテルも新規ブランドを展開するなど、バンコクは今後も国際的な投資と注目が集まる都市である。



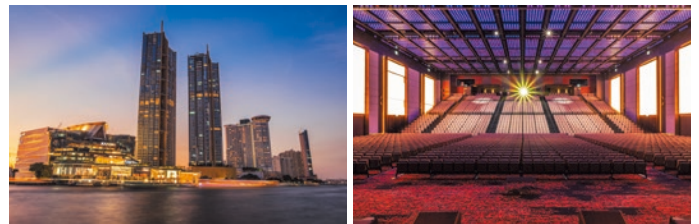
タイのMICE需要を受け入れるバンコクの大型コンベンションファシリティ

ワン・バンコク (One Bangkok)



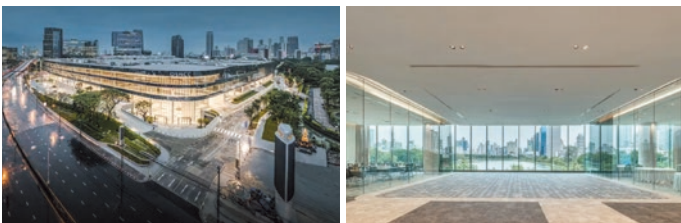
2024年10月にバンコクの中心部に誕生。オフィス、ホテル、ショッピングモール、住宅などが集結した大型複合施設。6,000席を備えた多目的アリーナ「ワン・バンコク・フォーラム」や大型オープンスペースを備えたコンサートや展示会など、様々なイベントが開催できる。
<https://www.onebangkok.com/en/>

アイコンサイアム (ICON Siam)



ショッピングモールやレストラン、美術館、映画館、高層คอนโดミニアムなどで構成されるチャオプラヤー川沿いの大型複合施設。このエリアを起点に船を利用した移動など、現代と伝統が融合するタイならではの雰囲気を感じるMICEプログラムの組み立てが可能。
<https://www.iconsiam.com/en>

クイーン・シリキット・ナショナル・コンベンション・センター (QSNCC)



タイ初の国際コンベンションセンター。30年にわたり2万件を超える国内外の会議、コンベンション、展示会イベントを開催してきた。2022年9月にリノベーションを終え、リニューアルオープン。2022年にはこの会場でAPECが行われている。

<https://www.qsncc.com/en/>

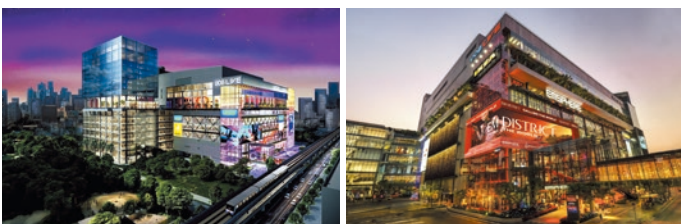
バンコク インターナショナルトレード & エキシビションセンター (BITEC)



バンコク中心部のバンナー地区に位置するタイ最大の国際貿易展示場。バンコク国際モーターショーをはじめ、年間を通じて東南アジアを含めた世界規模のビジネスを踏まえた様々なイベントを開催しており、最大4万人の収容が可能。

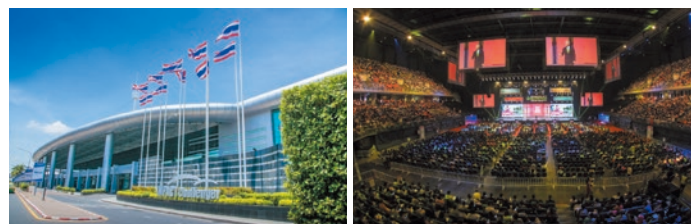
<https://www.bitec.co.th/>

UOB LIVE



BTSスカイトレインのブロンポン駅直結の便利なアクセス。商業複合施設エムスフィア内の6階にあり、コンサート、エンターテインメント、e-スポーツ、コンベンションや展示会が実施できる。着席のバンケットで1560人可能、シアタースタイルで4000席の設置が可能だ。
<https://www.uoblive.asia/>

インパクト・エキシビション・アンド・コンベンションセンター (IMPACT)



8つの多目的ホールと13のファンクションルーム、展示ホールなど、47,000㎡の多目的スペースがあり、最大収容面積20,000㎡の1つの大きなスペースにも対応可能だ。日本発の大型音楽フェスティバル「サマーソニック」が行われ日本からも複数のトップ人気アーティストが出演した。

家族も一緒に楽しめる MICEデスティネーション「パタヤ」 「バンコク+パタヤ」の提案

世界的MICEデスティネーションの「バンコク」に加えて、バンコク市街地から車でわずか2時間のパタヤはTCEBが定めるMICE CITY。ファミリーフレンドリーなホテルも揃っており、家族を帯同するMICEグループにも提案しやすい。

センタラ グランド ミラージュ ビーチ リゾート パタヤや、グランデ・センターポイント・スペース・パタヤは大きなウォーターパークやキッズ向け施設を備え、家族で安心して過ごせる。

またロイヤルクリフ ビーチ ホテルは、「パタヤ・エキシビション&コンベンション・センター (PEACH)」を備えており、コンベンション、展示会、コンサートなど、10,000人以上の収容施設をもち、大規模団体の受け入れに適している。

さらに、サウスパタヤと呼ばれる「ナ・ジョムティエン」地区でも開発が進む。世界的ホテルチェーンのアンダーズ・パタヤをはじめ、複数のブティックホテルが開業。ゴルフリゾートと組み合わせた提案も可能となっている。



観光列車「ロイヤルブロッサム号」で

豪華列車「ロイヤルブロッサム号」は、カンチャナブリ、アユタヤ、ナコーンパトム、ホアヒン、そしてパタヤなど、バンコクの近隣都市を訪ねる観光列車。車両はかつてJR北海道で使われていた列車を改装したもので、真っ赤な車体に光るゴールドの文字が特徴的。車内の座席は、広々とした間隔に配置され、窓の外に流れるのんびりとしたタイの田舎の風景を楽しみながら、移動自体を体験価値として楽しめる。

団体向けのチャーター利用が可能で、特別プログラムとして、車内に「マッサージコーナー」、「コーヒー作りのワークショップ」、「タイの占い師によるタロット占い」などのアクティビティの手配が可能だ。



特別感を演出するMICEプログラム



TCEBでは、タイ現地での歓迎ムードを演出する各種プログラムを用意している。

例えば、空港到着後のウェルカムサインを持ったスタッフの出迎えや、長い列に並ばずに入国審査に進めるファストトラックの使用など、到着直後から特別感を演出。また、空港でバスに乗り込む際には、民族衣装に身を包んだ女性によるウェルカムギフトの贈呈、パーティー会場への伝統舞踊団の派遣など、タイらしさを演出しながら、徹底した歓迎ムードで迎えるアレンジが可能だ。

各種サポートキャンペーンも実施しているので、詳細はTCEB日本事務所まで問い合わせのこと。



TCEB日本事務所

Email: info@bestrvl.jp TEL: 090-3400-1804
www.besinesseventsthailand.com

TCEBとは? タイ国政府コンベンション&エキシビションビューロー (TCEB) は、内閣府の外郭団体で、MICE ビジネスの展開とプロモーション事業を担う。コンベンションビューローとしてはアジア最大級の規模を誇る組織だ。TCEB はMICE での渡航を検討する企業や団体の要望に応えるため、タイ国内の行政各機関やDMC、関連施設やホテルといった複数の民間企業と緊密に連携。満足度の高い渡航をサポートすることで、優れたMICE デスティネーションとしてのタイの認知度向上を図る取り組みを行っている。

旅行業システムTabieがGDS XML連携機能を実装 ～カスタマイズより手頃なオプション対応が可能～

XML連携のオプション化で費用軽減

日本システム開発 (NSK) の旅行業システム「Tabie (タビエ)」は、GDSとのXML連携機能に関する新オプションを開発し、複数の旅行会社と実装に向けた準備を進めてきたが、8月中旬に旅行会社1社で機能提供を開始した。また年内には他の2社でも実装を完了する予定だ。



Tabieのユーザーは、日本旅行業協会 (JATA) 加盟の海外旅行主体の旅行会社や全国旅行業協会 (ANTA) 加盟の国内旅行主体の旅行会社、レジャー系旅行会社、業務渡航・インハウス系旅行会社など様々な形態で幅広く導入されている。このためTabieには旅行業システムに対する多様な要望が集まり、NSKは要望に基づき優先順位を検討したうえで、新たな機能の開発を進めている。

GDSとのXML連携をカスタマイズ対応とすると、活用するのはシステム投資の資金を確保できる大手が中心で、そこまでXML連携の利用頻度と重要度が高くない旅行会社にとっては、カスタマイズは費用面のハードルが高かった。しかし、人手不足が解消されないまま旅行需要が回復する中で、旅行業務の効率化の観点からGDSとのXML連携は業種業態や規模を問わず旅行会社に必須の機能になりつつある。

そこでNSKではGDSとのXML連携について、カスタマイズではなく、オプション化を準備してきた。費用もオプション化によって軽減し、なおかつ連携範囲も選べるよう工夫した。たとえば発券データに関する連携を含めないことも可能で、自社に必要な部分だけを連携させることで更なる費用の低減も図れる料金体系とした。NSKのDX

推進本部営業部・本部長代理の山田健一朗氏は「オプションでXML連携できるTabieなら、旅行会社にも、選択肢の一つとして提供しやすくなる」とオプション化の意義を説明する。

GDSと双方向のやり取りが可能に

GDSとのXML連携が求められるケースとして最近、頻度と重要度が増しているのがGDSへのAPISやDOCSなどの個人情報の入力対応だ。航空会社よりパスポート情報を含む旅行者のプロファイル情報を渡航先の入国審査当局へ事前送付する要請がある。そこで航空会社は、これらの情報をGDS経由で提供するように旅行会社にも求めている。

旅行会社はGDSにプロファイル情報を提供しなければならないが、XML連携していればTabieに登録してあるプロファイル情報を簡易的にGDSと共有することが可能で、いわゆるシングルエントリーが実現する。入力ミスを防ぎダブルチェックの手間も省けるわけだ。同時に旅行者のマイレージ情報や、備考情報をフリーテキストでGDSに登録することもできる。

発券データのXML連携を含めるというオプションも可能だ。これによってBSP精算に必要な発券データをGDSから取得し、Tabieの予約カルテに反映できる。旅行会社が旅行者に渡すeチケット控えの作成に必要なデータも、その都度GDSからダウンロードしないでXML連携によってTabieに格納される。その発券データを使いeチケット控えのPDFも作成できる。GDSからダウンロードできないタイミング、時間



DX推進本部 営業部
本部長代理 山田健一朗氏



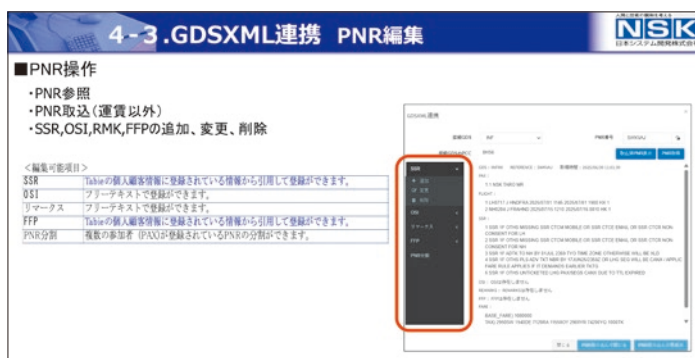
DX推進本部 営業部
マネージャー 山本篤司氏

帯であってもTabie側に格納済みの発券情報を使えるメリットもある。

多元化するプロファイル情報に対応

GDSとのXML連携はアマデウスとインフィニからスタートする。NSKのDX推進本部営業部・マネージャーの山本篤司氏は、「業務渡航ではセルフブッキングが増えている。アマデウスが提供するサイトリック (cytric) も有力なセルフブッキングツールのひとつ。セルフブッキングツールがプロファイルを保持しているため複数のプロファイルの管理が必要となる。XML連携することによりアマデウスのプロファイルと連携する事によりプロファイルの複数管理が不要になり旅行手配にかかる業務負荷も大幅な軽減効果があるはず」と証言する。

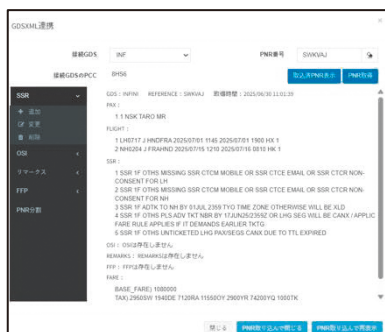
セルフブッキングは出張者が24時間365日どこからでも予約や変更をできる手軽さもあり、今後も増えていくと推測できる。アマデウスとのXML連携による情報の同期性の確保は、より重要性を増すものと考えられる。



GDS XML連携オプション 提供開始！

TableではGDS XML連携オプションにより、GDSと双方向でのデータのやり取り、eチケットの生成、AMADEUSのプロファイル情報取得、QUEボックス取込など、日々の旅行会社様のちょっとした業務の生産性を上げるオプションをご準備しました。連携GDS・オプション費用などは担当営業までお問合せ下さい。

双方向でのGDSとデータのやり取り



連携項目	概要
SSR	Table個人顧客管理に登録されている情報を引用し登録が可能
OSI	フリーテキストで登録が可能
リマークス	フリーテキストで登録が可能
FFP	Table個人顧客管理に登録されている情報を引用し登録が可能
PNR分割	複数の参加者（PAX）が登録されているPNRを分割することが可能

あなたの会社に必要なシステムがあります。なぜなら、あなたに必要な機能を選ぶことができるから。顧客管理機能を基本機能とし、その他の機能を必要に応じて選択することができます。

もう必要のない機能にお金を払う必要はありません。

Eチケット生成



QUEボックス取込




日本システム開発株式会社 DX推進本部 営業部

〒160-0021 東京都新宿区歌舞伎町2-4-10 KDX東新宿ビル6F

TEL. 03-5155-9415 FAX. 03-6302-1391

E-mail inquiry@nsk.co.jp

新大阪開発センター

〒532-0011 大阪府大阪市淀川区西中島6-11-25 第10新大阪ビル6階



週刊ウイングトラベル「ツーリズムEXPO特集」

編集発行所：航空新聞社ウイングトラベル編集部：国交省交通運輸記者会加盟
〒107-0051 東京都港区元赤坂1-1-15 ニュートヨビル3階
TEL: 03-3796-6646 FAX: 03-3796-6645